

『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」開催概要

- 1 開催日時 令和5年12月7日（木）午後2時30分から午後6時00分
- 2 開催場所 議会棟 404・405号会議室
- 3 出席者
 - 県下10高校の1～2年の生徒29名
参加生徒・・・篠ノ井、屋代、坂城、小諸商業、小海、諏訪清陵、諏訪二葉、伊那北、松本県ヶ丘、穂高商業
 - 佐々木祥二議長、埋橋茂人副議長
 - 広報委員
丸茂岳人議員、林和明議員、グレート無茶議員、高村京子議員、勝山秀夫議員
 - 会派選出議員
向山賢悟議員、花岡賢一議員、清水正康議員、藤岡義英議員、勝野智行議員
- 4 開催内容
議会傍聴、プレゼンテーション、グループディスカッション、意見・感想等の発表
- 5 プレゼンテーション及びグループディスカッションテーマ
 - 高校生のプレゼンテーション
 - ①「地方路線の活性化をめざして」
 - ②「誰もが公共交通機関を利用しやすくするための環境作り」
 - ③「空き家を活用した地域活性化」
 - ④「全県の高校生が繋がり合った探究活動の実現」
 - ⑤「長野の観光地に観光客をより多く呼び込もう」
 - ⑥「学校におけるICTの活用について」
 - ⑦「学校に行くことが難しい方々への支援策」
 - ⑧「荒れ地から信州の活性化を」
 - ⑨「保育士の待遇について」
 - グループディスカッション
①～⑨と県議会からの質問（投票率向上策、東京一極集中の是正）
- 6 参加者 62名（議員12名、生徒29名、傍聴者21名（学校関係者含））



○ 開 会

(埋橋副議長)

ただいまから「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」を開会させていただきます。

私は、本日の司会を務めます長野県議会副議長で、広報委員会委員長の埋橋茂人でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 長野県高等学校長会長あいさつ

(埋橋副議長)

それでは、長野県高等学校長会を代表しまして、長野高等学校校長の廣田昌彦副会長より御挨拶をお願い申し上げます。

廣田副会長、お願いいたします。

(長野高等学校 廣田昌彦校長)

皆さん、こんにちは。本日は皆様御多用のところ、長野県議会と長野県高等学校長会生徒の主体性を育む専門委員会が共に主催いたします「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」にお運びくださいまして、誠にありがとうございます。

特に、各会派からいらっしゃっている県議会議員の先生方におかれましては、11月定例会会期中にもかかわらず、このように高校生諸君のためにお時間をいただきまして、衷心より感謝申し上げます。

この会も、数を重ねてまいりまして、コロナ前では、一般参加者を含めるとかなり多くの高校生が参加したこともございました。その後、コロナ禍ではオンラインとなってしまいましたけれども、そのような状況でも、引き続き様々なトピックについて熱心なグループ討議が行われたと聞いております。今年もこのように、対面でこの意見交換会の場が持たれることはこの上ない喜びでございます。

若い皆さんは未来の創造者ではありますが、生徒の主体性を育むということはなかなか難しいことだと常々感じているところです。大人たちの側に何か意図があったり目的があったりすると、それが若者の内発的な自由な動機に影響をしてしまうことがあります。自らが気づき、自らがその問いを探求をしていく契機として、未来の長野県を真剣に考え携わっている県議会議員の皆様との対話から得られる刺激ほど、効果のあるものはないのではないのでしょうか。

本日参加をしてくださった高校生諸君におかれましては、今日のこのような機会に多くの人たちと意見を交換しながら、将来にわたって勇気を持ってアクションを起こしていくことの大切さを学んでもらいたいと思います。

最後に、本日のこの会の実施に御尽力をいただきました全ての方々に感謝を申し上げ、本会が実り多いものとなりますことを御期待申し上げまして、長野県高等学校長会の御挨拶

拶といたします。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

廣田校長先生、ありがとうございました。

○ 出席議員の紹介、進行方法説明

(埋橋副議長)

それでは、本日出席の県議会議員を紹介します。
初めに、長野県議会の佐々木祥二議長です。

(佐々木議長)

こんにちは、どうぞよろしく願いいたします。

(埋橋副議長)

それでは、1班から順次、県会議員を紹介申し上げます。
1班です。公明党長野県議団の勝山秀夫議員。

(勝山議員)

こんにちは、よろしく願いします。

(埋橋副議長)

新政策議員団の清水正康議員。

(清水議員)

清水です。お願いします。

(埋橋副議長)

2班です。新政策議員団のグレート無茶議員。

(グレート無茶議員)

普段からこの格好でやっています。よろしく願いします。

(埋橋副議長)

日本共産党県議団の藤岡義英議員。

(藤岡議員)

よろしくお願ひします。

(埋橋副議長)

3班です。自由民主党県議団の丸茂岳人議員。

(丸茂議員)

よろしくお願ひします。

(埋橋副議長)

同じく3班、公明党長野県議団の勝野智行議員。

(勝野議員)

どうぞよろしくお願ひいたします。

(埋橋副議長)

4班です。改革信州の林和明議員。

(林議員)

本日は、よろしくお願ひいたします。

(埋橋副議長)

同じく4班の、自由民主党県議団の向山賢悟議員。

(向山議員)

よろしくお願ひいたします。

(埋橋副議長)

5班です。日本共産党県議団の高村京子議員。

(高村議員)

よろしくお願ひいたします。

(埋橋副議長)

改革信州の花岡賢一議員。

(花岡議員)

よろしくお願ひします。

(埋橋副議長)

以上でございます。

では、今日の進行方法について少し御説明をさせていただきます。

本日の「こんにちはは県議会です」は、高校生が県議会を身近に感じ、県政に関心を高めていただくとともに、高校生の意見や考え方を今後の議会活動に活かすため、高校生と意見交換を行い、県政に反映させるという趣旨で行うものでございます。先ほどの廣田校長先生のお話のとおりです。

まず、生徒の皆さんから、次第にあります九つのテーマについて、それぞれ2分程度でプレゼンテーションをしていただきます。プレゼンテーションが終了しましたら、グループディスカッションを50分間行います。班ごとに話し合うテーマを決めてありますので、それぞれのテーマでディスカッションをお願いします。

二つのテーマを行うグループは、各テーマ20分を目安にしてください。残り10分程度になりましたら、議会から高校生の皆さんに質問したい二つの質問について、意見交換をお願いします。

進行は、各テーマの進行役の生徒さんをお願いします。議会からの質問については、各班の広報委員の議員が行います。意見交換は、結論を求めるものではありませんので、活発な議論をお願いします。時間の目安として、残り時間10分となりましたら、事務局からアナウンスいたします。

グループディスカッション終了後、各班の生徒さん、議員の一人ずつから、意見交換を終えての感想などを、発表していただきます。時間の目安は、生徒さん3分、議員2分程度としております。時間が押した場合は議員のほうを短くしますので、よろしく願いいたします。以下同様にして、5班まで順序で発表を行います。進行方法についての説明は以上です。

なお、広く県民に広報するため、本日の概要については、後日県議会のホームページに掲載させていただきますので、よろしく願いいたします。

○ プレゼンテーション

(埋橋副議長)

それでは、高校生の皆さんのプレゼンテーションを始めます。

スクリーンは正面と後方に二つありますので、見やすいほうを御覧ください。議長は席の移動をお願いします。

1番目のテーマは、「地方路線の活性化をめざして」です。

それでは、発表をお願いいたします。

(テーマ① 発表者)

こんにちは。まずは、このような機会を設けていただき、ありがとうございます。よろし

くお願いします。それでは、発表に移らせていただきます。

少子高齢化や自動車の普及により、鉄道の利用者が減少したことによって廃止路線が増加し、鉄道会社の経営が厳しくなっているという状況があります。そこで、私たちは、普段電車を利用する機会が多いという立場から、地域路線の活性化のために何かできることはないだろうかと思い、このテーマを設定しました。

少子高齢化、モータリゼーション以外には、車移動のほうが楽、感染対策などが利用者の減少の原因として挙げられると考えました。また、他地域では、地域のキャラクターが描かれたラッピング列車や、地域の食材を使ったスイーツを楽しめるカフェトレインなどのイベントが行われていることが分かりました。

今日の会に先立って9月10日に実施した「生徒の主体性を育む交流会」当日では、地方路線の役割、地域路線廃線による影響、また、鉄道会社の経営難の原因について議論を行いました。

長野県統計書を基に作成したグラフを見ると、乗車総数に対する定期券利用者の割合が非常に大きく、このままでは鉄道会社に利益が生まれにくい。また、少子化によってさらに経営難が見込まれると思いました。

提言内容です。新しい電車利用者を獲得するために、鉄道会社のイベント開催への支援をお願いしたいと思っています。

まず、電車を使ったイベントの例としては、車内放送を使って音楽を流し、音楽を楽しむ電車をつくったり、車内に地域の子供たちが書いた絵を飾る車内美術館などによって、家族や地域の方に見てもらえる機会をつくれたらと考えています。

また、飯田線などの無人駅の駅舎を使ったイベントでは、鉄道ファンを対象にしたイベントとして、駅長体験などを考えています。駅に人がいることによって、安心して電車を利用できるということで、ほかのお客さんの集客にもつながると思います。

また、チャレンジショップという、将来の新規開業を目指し、本格的な開業の前に、一定期間試験的な開業ができる施設を設けることによって、地元産業の発展や、中高生の探究活動の場としても駅が使えるのではないかと考えています。

以上で発表を終わりにします。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

続いて、2番目のテーマ「誰もが公共交通機関を利用しやすくするための環境作り」についてお願いいたします。

では、お願いします。

(テーマ② 発表者)

こんにちは。私たちは、公共交通機関に注目をして話し合ってきました。

まず、私たちは長野県の利用者はなぜ減少をしているのかと考え、それは自動車保有率の

増加が原因だと考えました。また、調べていくうちに、高齢者の自動車免許返納率が、他県と比べて低いことも問題だと思いました。

では、どうすれば公共交通機関の利用を促せるのか。それから、9月の交流会に向け、まず、利用者が減少するとどうなるのかを考えました。その内容は、時間の都合上割愛をさせていただきます。

そして、交流会当日は一般生徒と主にバスについて議論をし、現在の公共交通機関の課題について意見を出し合ったところ、バスに乗るハードルが高い（乗り方がわからない）、バス停が近くにないなどの意見が出ました。そして、どんなバスだったら使いたいと思うのかという問いでは、乗り方がわかりやすい、ちょうどいい場所に来る、という裏返しの答えが出ました。

そして、提言内容として、呼んだら来てくれるオンデマンドバスの普及。山形県で増便や新設のバス停を多くしたところ、利用者が増加したというデータから、バス停の増設や増便という策が出ました。

次に、小中学生に向けた授業時間を設けるなど。北海道でバスのイベントを開催したところ、それについてのアンケートでは、利用したことがなかったバスを利用した人が増えたり、今後も利用したことのなかったバスを利用したいと思う人が増えたというデータから、バスを利用したイベントを開催して、バスに乗る練習などをする機会をつくるという策が出ました。

そして、最後に、巡回するバスの範囲を市町村単位ではなく、もっと範囲を広げるという策が出ました。

これで発表を終わります。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

続いて、3番目のテーマは、「空き家を活用した地域活性化」です。

それでは、お願いいたします。

(テーマ③ 発表者)

皆さん、こんにちは。私たちは「空き家を活用した地域活性化」というテーマで提言をさせていただきます。

まずは、空き家問題の現状についてです。近年、少子高齢化に伴って日本の空き家数は増加しており、その中でも2018年の長野県の空き家率は19.5%と、なんと全国で3位の多さになっています。

私たちが考える空き家の課題、そして長野県の地域の課題として、市街地の景観の悪化、地域のつながりの希薄化などが挙げられます。これらは全て、地域のイメージダウンへとつながり、長野県の地域活性化の妨げになっていると言えます。そして、空き家問題の解決は、これらの課題の解消にもつながるため、空き家問題の取組は、地域活性化に不可欠だと考え

ます。

現在でも、楽園信州空き家バンクや移住お試し住宅など空き家の活用のための制度がありますが、これらに加えて、家としての用途以外の新たな活用方法が必要だと考えました。

9月の交流会では、従来のような県外の人々を対象とした政策だけではなく、地元でスポットを当てた新たな活用を検討しました。ターゲットごとに空き家の具体的な活用方法を考え、その中で、地域活性化においては、住民同士のつながりをつくる地域のための活用が重要であるという意見が出ました。

そこで、私たちは空き家の密集地を利用した複合施設という活用案を提案します。

使い方や、その在り方を地域の住民自らが決めていくことで、地域の特徴を生かした活用ができ、人が集まる場所が生まれていくのではないのでしょうか。長野県の地域活性化のためには、一つ一つの空き家の活用だけではなく、地域全体に目を向けた活用も必要ではないかと考えます。

空き家問題の解決によって、明るい町、そして明るい長野県をつくっていきませんか。以上です。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

続いて、4番目のテーマは「全県の高校生が繋がり合った探究活動の実現」です。

それでは、発表をお願いいたします。

(テーマ④ 発表者)

皆さん、こんにちは。「全県の高校生が繋がり合った探究活動の実現」というテーマで発表をさせていただきます。

まず、「教育県」長野県が目指す教育像として「1人ひとりの『好き』や『楽しい』、『なぜ』をとことん追求できる『探究県』長野の学び」、これを目標としています。

しかし、実際の生徒の声を聞くと、やる気がない、テーマ決めが難しいなど「探究県」長野県、そう呼べるような状況ではありません。特に、探究の基となる「自分の好き」、これに気づけていない生徒が多いといった声が多く寄せられました。

そこで、全県の高校生が繋がった「好き」が見つかる探究活動、これを実現してほしいと考えています。

具体的に言うと、Jラボを探究活動の時間に必須化してほしいと考えています。Jラボとは、長野県教育委員会等が主催しており、全県の高校生が問いを持ち寄り、オンライン上で討議をするといった活動です。

実際に話し合われた内容では、「2次元に何でハマるの?」というテーマから、推しの子、いや日本のアニメといった話を踏まえ、結論的には日本のアニメと情報量、このような奇想天外な帰着に至りました。

なぜ奇想天外な帰着に至ったか。それはやはり、全県の高校生が集まって話したからこそ

だと考えます。自分自身、この奇想天外な発想をととても好きだなと思い、今でも探究をしています。このような好きから探究活動を導く、そういった活動をぜひ、探究活動の時間に必須化し、Jラボを必須化していただきたいと考えています。

このようにして全県の高校生が繋がった「好き」が見つかる探究活動を実現し、まさに、「『探究県』長野県」を実現してほしいと考えています。以上です。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

続いて、5番目のテーマです。「長野の観光地に観光客をより多く呼び込もう」です。

それではお願いいたします。

(テーマ⑤ 発表者)

皆さん、こんにちは。私たちのグループは、「長野県の観光地に観光客をより多く呼び込もう」というテーマで発表をさせていただきます。

近年の長野県の観光業は衰退方向にあるというデータを見つけ、それに気づいて、長野県の観光業の活発さを取り戻したいと考えたことが背景でテーマ設定としました。

また、長野県の観光業はシニア世代の割合が多いということ、将来を担っていく若者の世代の人たちの観光客が少ないということが分かり、長野県の観光地を盛り上げ、観光客を多く呼び込みたいという思いで集まった8人で活動をしてきました。

観光業を活性化させるための案としては、SNSを積極的に使うと効果的なのではないか、また、都会では体験ができない企画をしたら都会の若者が興味を持ってくれるかもしれないという案が活動の中で出てきました。

9月の交流会で議論をした内容としては、長野県の自然を体験できるような企画をさらに多くしたらいいのではないかと、自然を使ったアクティビティを使った観光業をしていけば観光を盛り上げていけるのではないかと考えて、そこから具体的に方向を考えてみました。

まず、私たちの提言内容としては、県はZ世代をターゲットにして観光事業を進める方針でいるそうですが、ファミリー層に転換をしてみるのはいかがでしょうかということと、長野県の魅力を伝えるには、もっといい発信の仕方があるのではないかとということです。

テーマの「観光客をより多く呼び込もう」というものについて考えてみたのですが、交流会中に調べて実際に見つけたものとして、県の活動ではZ世代をターゲットとした活動を行っているということが分かりました。その観光客の層についても話し合っ、自然を使ったアクティビティがいいのではないかと考えた中で、やはり子供がいるファミリー層が適しているのではないかと私たちは考えました。ファミリー層に興味を持ってもらえるような観光事業を進めると、より長野県が賑やかになるのではないかと、宣伝の仕方もZ世代の方たちより簡単なのではないかと考えたからです。

二つ目として、自然を使った企画が行えそうな中で、私たちがあまり長野県のことを知らなかったのはなぜだろうと考え、SNSの仕方、宣伝の仕方が少し不十分なのではないかと

いう意見が出ました。そこから北海道観光の公式アカウントのInstagramと比較をしてみたのですが、文字で魅力を記載したり、お勧めの楽しみ方というものを具体的にやっていると魅力的に見えたのですが、一方、長野県のアカウントだと少しシンプルだったり、写真だけだったりとし物足りなさを感じたので、やはりいくつか課題があるように感じました。

X（旧Twitter）やInstagramの宣伝方法がやはり改善点があるのではないかと思います、投稿の仕方を変えてみたり、インフルエンサーの方などと協力してみたりするのもいいのではないかと私たちは考えました。SNSでの発信にもっと力を入れることで、さらに多くの観光客を呼び込めるのではないかと思います。

最後に、改めて私たちは、県はZ世代をターゲットにしている活動をしているようですが、ファミリー層に転換してみるのはどうだろうかということと、長野県の魅力を伝えるには、もっといいSNSなどでの発信があるのではないかとということです。

これで発表を終わります。ありがとうございました。

（埋橋副議長）

ありがとうございました。

それでは、続いて6番目のテーマです。「学校におけるICTの活用について」です。それでは、お願いいたします。

（テーマ⑥ 発表者）

皆さん、こんにちは。これから、学校におけるICTの活用についての発表を始めます。

初めに提言内容です。私たちの提言はICTの活用が活発な学校とそうでない学校が、学校間を超えてICTの活用方法を共有する場を設けることです。

ICTを使うことで、意見共有、プリント配布が即時可能であり、時間短縮につながるなどのメリットがあると考えたため、先ほどの内容を提言しました。現状を調べるために、ICTの使用に関するアンケートを行ったところ、学校ごとに違いがあることが分かりました。

ここから、なぜ学校ごとにICTの活用方法に違いがあるのかを考えました。

一つ目の仮説です。学校ごとにICTの使用状況に違いがあるのは、「先生方がICTの使い方を分からない」からである。

そこで、私たちは、講習会などを開けばいいのではないかと考えました。しかし、教育委員会の方にお話を伺ったところ、既にICTの使い方についての講習が行われていることが分かったので、別の方法を考えてみました。

二つ目の仮説は、「ICTを授業に取り入れる方法が分からない」です。

これを解決するために、私たちは、ICTをよく活用している学校と、あまり活用していない学校などが学校間を超え、活用の方法を共有することを提案します。この案に取り組む上で私たちが考えたポイントは二つです。

一つ目は、同じ教科を教える先生同士での共有です。

二つ目は、ICTを活用している授業の様子を見学する機会を設けることです。これによ

り、ICTがどのように授業で使われているかが分かり、ICTの活用につながると考えたからです。

以上のことから、私たちはICTの活用が活発な学校とそうでない学校が、学校間を超えてICTの活用方法を共有する場を設けることを提言します。

これで発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

続いて7番目のテーマです。「学校に行くことが難しい方々への支援策」です。

それでは、よろしくお願いします。

(テーマ⑦ 発表者)

皆さん、こんにちは。「学校に行くことが難しい方々への支援策」というテーマで提言をさせていただきます。

早速ですが、このテーマに至った背景として、県内の不登校児童生徒が増えている点があります。県内の不登校児童生徒数の推移を見ると、2017年度から2021年度まで高校、小学校、中学校で全て増えてしまっている状況です。

そして、不登校になってしまうと、不登校児童生徒が学習をすることが難しい現状がある。この二つのことが大きな問題となっているので、このテーマにしました。

そして、9月の交流会当日までの活動についてですが、私たちの班では、大まかに二つの活動をしました。

一つ目は、インターネットでの資料検索。二つ目は当事者、不登校になってしまった方へのインタビューや、学校の先生方にインタビューをするという活動をしました。

チームの視点と当事者の声ということで、配付された端末による授業参加を出席扱いにできるかどうかということが、交流会当日、大切なのではないかということになりました。

そして、当事者の声ですが、やはりパソコンやタブレットなどリモートで、学校に行かずに授業や朝の会などに参加できるということがあると非常に助かるという意見が出ました。

次に、交流会当日の議論内容ですが、学校に行けない方々へどのような支援ができるのかという問いが出ました。出た意見として、リモート資料やリモート課題を受けたり、修了をすることで、出席扱いにできるようにすること。リモート授業で出席する際、診断書等の書類を提出すること。この二つがとても大切なことではないのかという結論に至りました。

これらのことを踏まえ、三つのことを提言します。

一つ目が、1人1台端末の完全配付。私の友人なのですが、まだ学校によって端末が配付できていないところがありまして、それを改善するために、1人1台端末の完全配付をお願いしたいと思います。

二つ目に、リモート授業やリモート学習での支援の充実。

三つ目に、リモートで出席扱いできるようにすること。

以上の三つが今まで話し合っただけで考えてきた提言になります。
緊張してうまくできていませんが、御清聴ありがとうございました。

(埋橋副議長)

大丈夫ですよ。私のほうがよほど緊張しています。
続いて8番目のテーマに入ります。「荒れ地から信州の活性化を」です。
では、よろしくお祈りします。

(テーマ⑧ 発表者)

皆さん、こんにちは。僕たちは「荒れ地から信州の活性化を」というテーマでこれまで考えてきました。

これを考えた背景といたしましては、全国的に荒れ地と言われる耕作放棄地は年々増加しています。長野県はほぼ一定ですが、土地持ち非農家が増加しており、実質荒れ地が増加している傾向があります。

なぜ荒れ地が増えるといけないのかといたしましては、害獣が増える。人が入らないため害獣が荒れ地に入ってきてしまい、その獣たちが田畑を荒らしてしまっていて農作物に被害が出てしまう。また、景観が悪化し、観光客などが入らなくなり観光業がダメージを受けてしまい、市町村の景気が悪化してしまったりすることがあります。

私たちは、荒れ地を減らすためにどうすればいいかこれまで考えてきました。

私たちは今回、この荒れ地を解決するために、次のような企画を提案します。荒れ地を長野県の名産であるそばを使って、春休みに都会の方に来てもらって、そばの実を一から育てて夏休みに収穫してもらい、それを手打ちそばにして食べてもらうという企画です。具体的に、期間は春から夏、夏から秋の2回に分けて作ります。

また、県内にあるそばを扱っている企業とコラボして、そばの作り方などの技術を教えてもらう代わりに、その土地でできたそばの一部を提供するという形でコラボするのもいいのではないかと考えています。

この企画でのそれぞれのメリットを考えてみました。今回は時間の関係上、割愛させていただきます。

これらのことを踏まえて私たちが提言することは、今述べてきた、そばの企画を行ってほしいということです。

これで終わります。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。
最後のテーマです。「保育士の待遇について」です。
それではお祈りいたします。

(テーマ⑨ 発表者)

こんにちは。私からは、「保育士の待遇の改善」について提言をさせていただきます。よろしくお願ひします。

初めに、保育士の現状とその課題についてです。保育士の課題はズバリ人手不足です。過酷な労働環境に対して賃金がとても低い状況にあります。厚生労働省の「令和元年賃金構造基本統計調査」では、全国の給与水準に比べて保育士の給与水準は全国的に低く、その中でも長野県の保育士は群を抜いて低い、という状態がうかがえると思います。こうしたなり手不足により、長野県の保育園では閉鎖に追い込まれているところもあります。

こうした賃金の上昇には、県民の理解が欠かせません。その保育士という仕事の重要性や独自性、専門性について、より多くの人に理解をしてもらう必要があります。

9月の交流会当日では、保育士の現状、課題、そして専門性について話し合い、話し合いを通してより課題について明確化され、自分では持っていない意見をもらうことにより、多角的な意見を得ることができました。

提言に移ります。私から皆様に提言をさせていただくことは、次の三つです。

一つ目は、全ての保育士に対して給料補助をすることです。現在、国政では、ある一定の研修を積んだ保育士に対して給料補助がされていますが、それでは新しくなった保育士には給料補助は適用されません。そのため、全県の保育士に対して給料補助をする必要があると考えています。

そして二つ目は、高校生、中学生が保育実習などの体験を通して保育士の仕事について知ることです。体験を通して未来世代の保育士への理解の促進を図ることにより、県民に保育士の重要性や独自性について知ってもらうことにより、保育士の給与を上げることに對して県民の理解を得ることができます。

また、保育士としてのキャリアを中高生に知ってもらうことにより、人手不足に対しても一定の効果が見込めると思っています。

そして、最後に、保育士1人当たりの園児の配置基準を現在の30人から20人にすることです。

それぞれの市町村が独自に行っているところもありますが、それぞれの保育士の負担が軽減されるよう、段階的に保育士1人当たりの園児の数を少なくする必要があると考えています。

最後に、この問題に対して県知事や県議の皆さんの関心は高まっているようにメディアなどから感じ取っています。しかし、この問題を解決するためには抜本的な改革が欠かせません。抜本的な保育士の待遇を通して、県民の宝である子供たちによりよい保育を届けませんか。

以上で発表を終わりにします。

(埋橋副議長)

それぞれ、九つのグループの皆さん、ありがとうございました。

○ グループディスカッション

(埋橋副議長)

それでは、引き続き意見交換会に入ります。

各班まず、自己紹介から始めていただければと思いますので、議員の皆さんから口火を切る形をお願いいたします。それではお願いいたします。

【 グループディスカッション 50分 】

○ 意見、感想等の発表

(埋橋副議長)

各班で話し合った内容の感想発表に移ります。それぞれの班ごとに高校生と議員合わせて5分程度、高校生の方優先で感想をお願いいたします。

それでは、1班からお願いします。

(1班 発表生徒)

まず、私たちが議員の方たちに提言したことは、電車の中などで音楽を流したり、電車に絵を飾ったりして、電車を利用してくれる人を増やすのはどうかという提言をしました。

それに関しては、議員さんたちが、音楽を流したり絵を飾ったりすることはとてもいいのではないかと賛成をしてくれました。そして、私たちは音楽を流したりすることは少し難しいのかと思っていたのですが、議員さんが賛成をしてくれたことでとても頼もしかったです。

それから、大糸線などのSuicaが使えない路線に導入することという提言をさせてもらったのですが、Suicaを導入できない理由は、莫大な費用がかかってしまうのでできないということがあり、やはりお金などの問題もあるのでできないのかと思っていたのですが、サイクルトレインという自転車を積める電車の普及を議員がしてくれているということを知って、自分たちが思っているよりも、議員さんたちもそのようなことを話し合ってくれているということを知って、とても嬉しかったです。以上です。

(埋橋副議長)

清水議員、お願いします。

(清水議員)

今、お話をいただきました、うちの班は「地方路線活性化をめざして」と、「誰もが公共

交通機関を利用しやすくするための環境作り」ということで、まず、電車を楽しくしようという話がありました。

路線が廃止されると聞くと、なんとなく気持ちが沈んでしまうような寂しいという気持ちがあるのですが、音楽を流したり絵を飾ったりという、「こうなれば楽しいじゃん」という提案をしていただいて、とてもいいかなと思いました。

それから、オンデマンドバスという提案もしてもらいまして、オンデマンドバスの課題みたいなものも話をしながら、でも、地域のために必要なのだというようなことを話げできたのかなと思います。

バスも電車もそうなのですが、先ほどもありましたが、Suicaのような交通系のICカードをどうかというようなことも、1枚あればどんな乗り物でも乗れてしまうという感じになれば便利になるよなという提案もさせていただいて、それだったら国がもっと支援すればいいのという話もさせていただきました。

政治家ができることという部分で僕らも返す部分が少し少なかったのですが、でも夢がある話だったりこうすれば良くなるという提案もいただいたので、とても良い議論ができました。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

では、続いて2班の生徒さんの方からお願いします。

(2班 発表生徒)

初めに、自分たちのグループでは「空き家を活用した地域活性化」の話をしたのですが、いろいろな意見が出て、例えば空き家を活用する過程で空き家を壊す体験などを加えたり、そのような活動をしてみたいというような話が出たりしました。

二つ目の話合いが、「全県の高校生が繋がり合った探究活動の実現」をしたのですが、班の方の意見や自分の意見だけではないものが出たり、議員さんの意見などが聞けて、すごくいい体験ができました。以上です。

(埋橋副議長)

ありがとうございます。

藤岡議員、お願いします。

(藤岡議員)

うちの班では、先ほど高校生の方が話してくれました「空き家対策」と、「全県の高校生が繋がった探究活動」ということで、「空き家」のほうは、最初、カフェとか学習施設とかアウトドアで泊まれる場所とかいろいろ出たのですが、リノベーションで高校生たちが、ある程度大工とかの技術を持った人のサポートがあって、自分たちでDIYというか、そのようなものができたら面白い。そうすると今、土木建築で人手不足なので、高校生が関心を持

てば人手不足解消につながるのではないかと空き家の話から結構話が膨らんで、面白いなと刺激をいただきました。

それから、「高校生が繋がった探究活動」ということでは、探究活動ということは僕もやった経験がなく、どちらかというと言験生のときは暗記ばかりだったので、どのようなことかと思っていたのですが、今の高校生たちもなかなか探究ということで結構苦勞をされている。調べることばかりやっているという探究の話から、問題提起された高校生の方々は、意見を交わし合って探究するのだという話を聞いて、探究という言葉で全然捉え方が違うのだなということや、同じグループだと探究せずにはほかの話に逸れてしまうので、同じグループだけであるよりも、全県のあえて知らない者同士で意見を交わすこともいいのではないかなど、いろいろ話が活発になりまして、大変私も刺激を受けました。とても勉強になりました。今日はありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

次に、3班の生徒さんからお願いします。

(3班 発表生徒)

私たちの班は、「長野県の観光地に観光客をより多く呼び込もう」というテーマで今回、話をさせていただきました。

今回の討論で分かったことが、意外と長野県のことをみんな知らないということです。

例えば、高校生の皆さん、隣の人の学校名を見て、その地域の名産というものが何かということを一発で想像できるでしょうか。私(の隣の人)は「諏訪」と書いてあるのですが、諏訪というところは池…、他にうなぎとかもあるのですが、最初に思い浮かんだものがそれしかなくて、本当に長野県のことをみんな知らないなと思いました。

そういうこともあって観光客を呼び込むためには、まずは長野県の魅力を知らなければいけないということが分かった感じです。終わります。

(埋橋副議長)

それでは、勝野議員お願いします。

(勝野議員)

今、「長野の観光地に観光客をより多く呼び込もう」ということでの話合いをさせていただいたのですが、今回改めて高校生の皆さんと話をさせていただく中で、この長野県がアピールをしているSNSの写真や情報になってないということが分かりまして、早速来週の委員会で観光部に伝えます。

魅力を感じないという、写真のみで活字がないということで、そうなのだと改めて私も教えていただいたり、またインバウンド対策の中でも県内各自治体をお願いをしなければいけ

ない部分もあるかもしれないのですが、道路案内に英語表記が少ないとか、コミュニケーションが取れる方があまりいないとか、英語のアナウンスが少ないとか、バス停なり駅なり、それぞれのところでのそういった課題というものも、今回改めて認識をさせていただきました。

特に今回提言いただいた、ファミリー層。Z世代ではなくてファミリー層にということの中では、ファミリーだと人数も多いし口コミも広がって、子供が大人になったときに思い出となってまたそこに行くとか、孫の代にもそこに連れて行ってあげるとかというようなことも発展をしていくよね、というようなことを教えていただきました。

本当に、今回私たちも参考になるこういった話合いができて良かったと思います。大変ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

では、4班の担当の生徒さんお願いします。

(4班 発表生徒)

僕たちの班では、「学校におけるICTの活用について」と、「学校に行くことが難しい方々への支援策」の二つのテーマを話し合いました。

話し合ってみて分かったことがあって、このテーマは、実は二つともICTを活用するという共通点があり、でもいろいろな学校のいろいろな方や議員さんと話してみても、ICTの1人1台端末がかなり配付されているけれど、活用があまり上手にできていなかったり、学校ごとに活用にムラが生じているということが今回分かりました。

時間や労力がかかってしまうかもしれないけれども、僕としては何年後になるかも分からないですが、いつかは議員さんたちに頑張ってもらって、学校などでみんなが気持ち良くICTを活用して学習ができる、そんな長野県にしていきたいと思いました。

それから、もう一つ感想があるのですが、僕は自分の中で議員さんはお堅いイメージが最初はあったのですが、とても柔らかく接していただいて、いろいろな高校のいろいろな方とこのような共通のテーマで話し合えるというなかなかない体験が今日はできて、とても自分の高校生活にとっても大きなアドバンテージになったと思いました。以上です。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

では、向山議員お願いします。

(向山議員)

今回4班に参加をさせていただきました向山です。

まずは感想ですけれども、私の家にも高校生の子供が二人いまして、普段ほとんど今会話

がないので、今日この会話がものすごく楽しかったです。

今、生徒さんからもありましたとおり、今回のテーマもICTの活用についてというところがあったのですが、やはり生徒の皆さんの興味もありますし、やる気もあると。ただ、なかなか学校の温度差もありますし、教える側の先生のITリテラシーの問題もあるし、教えてもらう側の生徒さんのITリテラシーの問題もあるので、なかなかうまく今進んでいないなという実情をすごく感じることができました。

ただ、県議会も今タブレットを使ったICTを活用しようとして大変苦勞をしているので、同じなのかなと思いますし、高校生の皆さんにしっかりと使ってもらえるように、まずは自分たち、県議会もしっかりとICTを活用しながら県政に取り組んでいただきたいと思いました。

それから、議会を傍聴しての感想を聞いたのですが、少し難しい話題だったのかと思ったのですが、たまたま今日見ていただいた議員が、飯田の焼き肉の話が多くしていたので、すごく親近感が湧いたという意見をもらえたのは、それは今回貴重な機会になったと思います。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

では、5班の生徒さん、お願いします。

(5班 発表生徒)

5班です。5班では主に二つ。「荒れ地から信州の活性化を」というものと、「保育士の待遇の改善について」の話合いをしました。

一つ目の「荒れ地から信州の活性化を」に関しては、企業の方との連携が欠かせないということで、企業の方にどうしたら参加してもらうような形がつかれるのかということを中心に話し合いました。

企業の方は、やはり収益性がないと参加することが難しいということで、その収益性の問題をどのようにしたら解決ができるのか、また、収益性がもしなかったとしても、企業にとってイメージアップができる機会になればいいのではないかとということで、議員の皆さんから意見をいただくことができました。

「保育士の待遇について」に関しては、保育士の給料に補助が必要ということに関して、議員の皆様から、僕の考えに関して賛同をしていただきました。

ただ、青天井の補助に関しては国全体でストップをする必要があるということで、多角的な意見、自分では思いつかなかった意見をいただくことができました。

また、提言の中でも保育に関して全体的に理解を促進する必要があるということもお話したのですが、その中でも、保育の利用者が保育士の大変さを理解して、より多く費用を払う必要があるのかもしれないということや、行政だけではなく保育全体のシステム自体にも問題があるのではないかと意見をいただくことができました。

大変貴重な機会をいただいて、議員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう

ございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

では、花岡議員お願いします。

(花岡議員)

企業の話。先ほど話をしてくれましたが、「荒地から信州の活性化を」ということなのですが、耕作放棄地の話がメインだったので、あえて今の状況を農地中間管理機構だとか、今優良な土地というものはだいたいもう手がついてしまっていて、あえて日当たりが悪いところとかもあるのですが、そういったところをどうするのかという、大人のいやらしいと言いますか、いきなり否定を試みる大人のようなことをわざとやってみました。

でも、その中で、ではどのようにそれを解決していくのかということが多分探究につながったのかと思っています。

企業の参加を促すところと言うと、収益性とかを考えていかななくてはいけないよね、ではイメージアップはどんなのだろうという、より掘り下げてこれをやるとこうだよ、ということができたのかなと思っています。

それから、「保育士の待遇について」ですが、もう発表者のほうから、政治に関わる人たちは、保育士の待遇についてという認識が低いのではないかということのイメージを言われたようなところがあったと思います。今の状況を考えると、より待遇の厚いところを取られてしまうということもものすごく勉強をされていて、ではそれについてどのように反論をかけていくのか、では全国的にどのようにしていくのかということの議論を深められたと思っています。

やはり、切り口が斬新で面白かったなと思うところで、申し上げなければいけないのですが、議会からということで県議会に対してのイメージの中で、どこの班だったか、写真だけなど発信がいまいちのようなところがありましたよね。これはやはり難しさがあると思ったのですが、単純すぎると伝わらないし、いろいろ書き過ぎるとまたこれも読んでもらえないという、この両方なのだろうなと思います。

県議会のX（旧Twitter）の使い方、理解に苦しむ、何を言っているのか分からないという話です。これが一番政治家が陥ってはいけないところだと思います。何をやっているのか分からないというものを何をやっているのかを分かるようにしていかなければいけないということが、私たちの役割かなと思いました。

非常に刺激的で面白かったです。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

それでは、最後に佐々木議長から全体の感想とお礼の挨拶を申し上げます。

では、佐々木議長お願いします。

○ 長野県議会議長所感

(佐々木議長)

本日は、意見交換会、本当にありがとうございました。限られた時間の中で、皆様方から思いの詰まったプレゼンをいただきまして、また、活性するような意見交換ができたと思っております。本当にありがとうございました。

高校生の皆様方の熱い思い、切実な思いに触れることができ、本当に大変有意義な時間だったと思っております。また、できたらやりたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思えます。

私が参加しましたグループでは、地方路線の活性化や利用しやすい公共交通機関をテーマに意見交換をさせていただきました。これはまさに、誰もが住みやすい長野県を実現していくために、県議会としても第一に取り組まなければならないテーマであると思えました。

本日、若い世代の皆様のお意見をお聞かせいただく中で、幾つもの気づきをいただけたのではないかと思っております。皆さんからもお話がありましたように、我々のふるさとである長野県には、全国に誇れる魅力ある素晴らしいものがたくさん存在しております。それをどうか活かしながら、より多くの人に長野県に住んでいただき、ずっと住み続けたいと思ってもらえるような県にしていくことが大事であると感じさせていただきました。

私たち議員も、日々考えておりますけれども、本日いただいたような皆様方の御意見等、長野県を担う皆様方の御意見は大変参考にさせていただきたいと思えます。私たち議員は、本日皆様からいただきましたお考えや御意見をしっかりと受け止めながら、今後の議会活動に活かして行きたいと思っておりますし、できることは一つでも実現もしていけるようにしたいと思っております。

皆様方には、本日をきっかけといたしまして、長野県議会、県政に一層関心を持っていただきますように御期待するとともに、前途有望な皆様のこれからの御活躍を御祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

また、先生方本当にありがとうございました。感謝を申し上げます。

○ 閉 会

(埋橋副議長)

では、生徒の皆さん、会場の皆様方、長時間にわたりまして熱心に御参加いただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」を終了いたします。どうもお疲れ様でした。